日本大学
生物資源科学部

校友会会報

2024年（令和６年）　第77号

生物資源科学部本館

《目　次》

学部長挨拶…… 2
会長挨拶…… 3
令和６年度総会・懇親会…… 4
令和５年度校友会収支決算書…… 5
令和６年度校友会収支予算書…… 6
校友だより（いもづる会）…… 7
校友だより（あすなろ会）…… 8
校友だより（桜水会）…… 9
校友だより（FT会）…… 10
富獄会（生命農学科）…… 11
紫友会（生命化学科）…… 12
角笛会（獣医学科）…… 13
満喜葉会（動物資源科学科）…… 14
いもづる会（食品ビジネス学科）…… 15
あすなろ会（森林学科）…… 16
桜水会（海洋生物資源科学科）…… 17
工学会（生物環境工学科）…… 18
ＦＴ会（食品生命学科）…… 19
拓友会（国際地域開発学科）…… 20
応用生物科学科校友会（応用生物科学科）…… 21
くらしの生物学科校友会（くらしの生物学科）…… 22
支部だより（宮城県支部、山形県支部）…… 23
支部だより（神奈川県支部）…… 24
校友会からのお知らせ…… 24

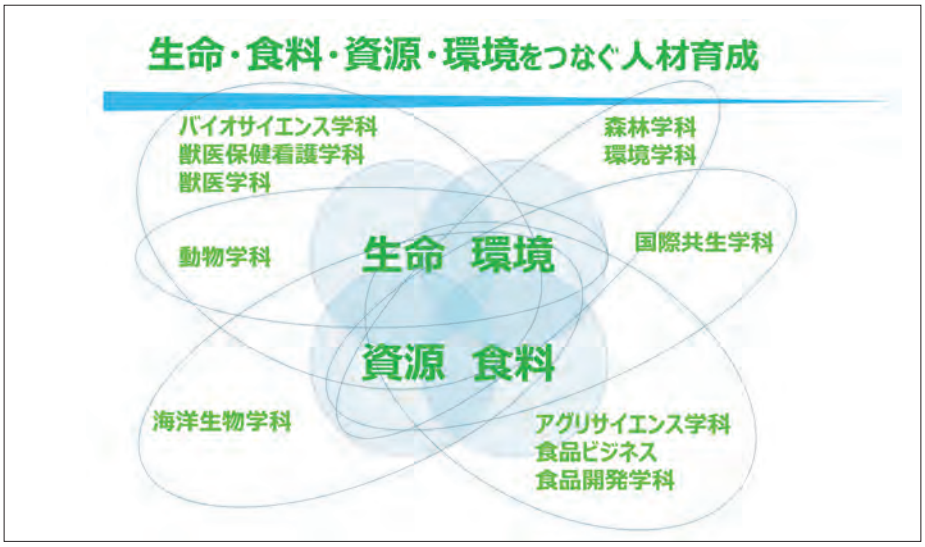
「未来に向けた新しい学部の創造」

生物資源科学部長
関　泰一郎

近年の科学技術の目覚ましい進歩や世界情勢の急速な変化により、現代の学生が学ぶべき内容は、質・量ともに高度化・多様化しています。このような状況の中、日本大学生物資源科学部は、先人たちの業績を深く学び、それらを知恵として多様な課題に応用する能力、人財の育成を実践してまいりました。

日本大学は、明治22年10月、学祖である山田顕義によって「日本法律学校」として創設され、その長い歴史と伝統の中で数々の分野で活躍する多くの人材を輩出してきました。生物資源科学部の起源は、日本大学の専門部拓殖学科から発展した「農学部」にさかのぼります。昭和18年に設立された農学部は、昭和27年に東京獣医畜産大学との合併により「農獣医学部」として新たにスタートし、その後、平成８年４月の改組を経て、現在の学部名「生物資源科学部」となりました。また、平成12年には大学院「農学研究科」を「生物資源科学研究科」へと改組し、日本や国際社会が直面する生命・食料・資源・環境に関するさまざまな課題に取り組み、科学・技術の持続的な発展に大きく貢献してきました。特に生物資源の生産や利用に関する科学、生命科学、環境科学に関連する分野においては、今日のSDGsの17の目標すべてに関連する独創性の高い研究を、SDGsの概念が一般化される遥か以前の1990年代より展開し、世界をリードしてきました。さらに最近では、人・動物とそれを取り巻く環境・生態系の健全性を「一つの健康（One Health）」として包括的に捉え、関連する学術分野が連携・協力してさまざまな問題の解決にあたっています。

このような学部の歴史と伝統を背景に、令和５年４月には大規模な学部改組が実施され、従来の12学科の体制から11学科の体制で新たなスタートを切りました。この改組により、現代社会のニーズに対応した最新のカリキュラムを整備し、学生たちは広範な知識と高度な専門性に加え、豊かな教養と深い洞察力、そして高い倫理観を備えた教育を受けることが可能になりました。また、日本大学の教育理念である「自主創造」を実現するために、学生一人ひとりが「自ら学ぶ」「自ら考える」「自ら道をひらく」能力を身につけ、新しい価値を創造して社会に貢献する人材を育成しています。特に生命・食料・資源・環境を基盤とした新たな学びを通じて、国際的な視野を持ち、広く社会で活躍できる人材の育成に注力しています。



新しい生物資源科学部の11学科と人材育成目標

一方、世界人口の急増、気候変動、地球温暖化や新興感染症、そして食料の安全保障といった地球規模の課題は年々深刻化しており、我が国においても、少子高齢化による社会構造の変化や超高齢社会の進行にともなう健康維持の問題、さらには地震や自然災害への対応など、これまでに経験したことのない高度かつ複雑な問題に直面しています。このような状況において、現代の学生には、単に知識を吸収するだけではなく、自ら考え、様々な課題の解決策を見出す力が強く求められています。

私たち教育・研究機関にも、従来の学問の枠組みや価値観にとらわれず、新しい視点で未来を創造する柔軟かつ弾力的な対応、時代の変化に敏感に対応しながら、社会に貢献する教育と研究を展開していく使命があります。

生物資源科学部は、学部の未来を見据え、常に学生・校友・教職員が一丸となって、生命・食料・資源・環境をつなぐ人材の育成、持続可能な社会と新たな価値の創造に邁進してまいります。引き続き校友の皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「第77号校友会会報発刊に向けて」

生物資源科学部校友会　会長
鳥海　弘
（昭和50年　獣医学科卒）

日本大学生物資源科学部校友の皆様方に於かれましては、各々の分野でご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。長い間 人々の行動を大きく制限してきた新型コロナウイルス感染症も昨年５月に第５類感染症へと変更され、ようやく社会活動もコロナ禍前の本来の姿に戻りつつあります。こうした中、学部校友会活動は昨年の通常総会にて選任された新執行部にて職務を務めてきましたが、本来の活動に近い事業を執行できました。

令和６年度生物資源科学部校友会通常総会は、7月13日に多くの会員の出席の下、昨年に続き対面にて開催が出来ました。

本学部校友会通常総会では報告事項4件と協議事項6件の議案を上程し、すべての議案が賛成多数で承認されました。昨年度の事業報告並びに会計報告を、また本年度の事業計画並びに予算等について承認を頂き、今後の活動の指針とさせていただきます。総会にて多くの闊達なご意見を頂戴いたしました。中には校友会でなく、大学に対するご意見等をも頂戴いたしましたし、校友会に対する意見の中にも本部校友会に対するご意見もありましたので機会を見て本部校友会に伝えます。

また、校友会に対する功績により、表彰をお受けになられました４名の会員の会員の皆様方には衷心よりお慶びを申し上げますと共に、今後もご健勝にてご活躍されますことを祈念申し上げ、引き続き校友会に対しましてご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

総会終了後には５年振りに懇親会を盛会に開催する事が出来ました。ご多忙の中、日本大学本部から、日本大学副学長・日本大学校友会副会長 兼板 佳孝様、日本大学校友会本部から日本大学校友会副会長・経済学部校友会会長 武居 弘市様をはじめ多くの他学部校友会会長、生物資源科学部長 関　泰一郎様はじめ学部執行部、都道府県支部、桜門会の方々、さらに付属小学・中学・高等学校の校長先生の計27名のご来賓の方にご臨席を賜り、総勢100名を優に超える皆様をお迎えして懇親会を開催しました。乾杯の発声は、92歳を迎えられた大先輩の音頭で幕を開け久しぶりの交流を楽しんでおられました。このように多くのご来賓をお迎えして開催出来ますことは、本学が日本一の総合大学であるからこそ成し得る賜物です。今後もこの特徴を生かし皆様のご協力を得て組織の充実を図っていきます。

さて本学部校友会活動ですが、校友会本部からの還付金が主な活動資金源ですが、３年前に元来の還付率60％から４年をかけて年５％ずつ漸減し、最終的に40％が学部校友会に還付されることが一方的に通知されましたが、本年1月に開催された校友会本部役員会にて、意見を延べたところ現状維持の50％の還付で据え置く事となり、校友会本部内に会費制度検討特別委員会を設置し検討することになりました。これらから本学部校友会の今後の運営には、大幅に予算を緊縮した運営が求められることになります。

このような状況下でも本学部校友会は活発に活動している組織です。それは本学部校友会が12分会＋1準分会の集合体であり、各分会がそれぞれ活発に活動しているからです。しかしこの状況も昨年４月から始まった学部の改組により（12学科が11学科）７つの分会（富嶽会、紫友会、満喜葉会、工学会、拓友会、応用生物科学科校友会、くらしの生物学科校友会）をどう継承するか大きな課題となっております。既存の分会を引き継いでもらえない、６つの学科（バイオサイエンス、動物、環境、アグリサイエンス、国際共生、獣医保健看護学科）にはまだ分会が設立されない状況で、進展が見られない状態です。

中には各分会を無くして「生物資源科学部校友会」で1つにすればよいのではないか…という意見もありますが、そうなると本学部校友会の活動結果は予測できます。活動が沈滞することは明らかです。ぜひ各分会又は各学科内で話し合いの上、最善の方向を導きだしていただかなければなりません。

本学部校友会の活動は、11万余名の同窓生を対象にしておりますが、将来、在校生が校友会に関心を持ち入会・活動していただくためにも、在校生である準会員向けの事業にも重点を置いております。本方針は将来のための投資ということで今後も継続して対応して行きますので、今後も皆様のご理解・協力を得て組織の充実を図って行きます。

本年も第77号校友会会報を発刊する運びとなりました。校友諸兄に本誌を拝読して頂き、改組された学部の現況や各分会の活動をお届けできれば幸いに存じます。総合大学である本学の特色を生かし「学生・教職員・学部・校友会」という強固な「絆」で形成された校友会活動への積極的な参加をお願いし、校友会の目的である会員相互の親睦を図り、母校の発展並びに社会貢献をお願いする次第です。末筆となりますが、校友諸兄にはこの社会情勢下でありますが、健康に十分に留意され、ご活躍されますことを祈念申し上げ巻頭の挨拶といたします。

令和６年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会の報告

令和６年度の通常総会及び懇親会を令和６年７月13日（土）に開催しました。

○通常総会は、日本大学生物資源科学部本館14階ＮＵホールＡにおいて午後２時に松宮幹事長が開会を宣言し、83名の会員にご出席をいただき、議長に工学会会長で学部校友会副会長の酒川会員が選出され、議事録署名人に「満喜葉会の植村会員」と「ＦＴ会の得丸会員」が選出され、通常総会が開催されました。

報告事項として事務局から次の４件の報告がありました。

1　副会長の承認について
2　幹事長の交代について
3　名誉会長の交代について
4　分会選出幹事の交代について

続いて審議事項に移り次の６件の議案を審議しました。

1　令和５年度事業報告
2　令和５年度収支決算報告
3　令和５年度末財産目録
4　令和５年度定例監査報告
5　令和６年度事業計画（案）
6　令和６年度収支予算（案）

審議結果はつぎのとおりです。

令和５年度の事業報告、収支決算報告及び令和５年度末財産目録の３件が一括して説明され、その後、長谷川監査役から監査報告がありました。

監査報告は以下のとおりです。

事業計画の執行状況は、「会則及び諸規程に従い適正に運営されていると認める。」ということでしたが、次の３点について検討要請がありました。

① 分会交付金による在学生への補助・支援をより一層増強する方策
② 学科校友会がない新６学科については、まず学科校友会設立のための準備委員会設置
③ 新入会員（卒業生）がいなくなる旧７学科校友会の学部校友会における今後の処遇

収支決算報告は、厳正に監査をした結果「適正に処理してあることを認めます。」でした。

質疑応答後採決が行われ、３件とも賛成多数で承認されました。

次に事務局から令和６年度の事業計画案と収支予算案の２案が一括して説明され、質疑応答後採決が行われ、賛成多数で承認されました。

審議終了後酒川議長は議長を退任、松宮幹事長が閉会宣言し、令和６年通常総会は、午後４時17分に閉会しました。

○懇親会は、コロナ禍の中で令和元年度を最後に開催できませんでしたが、今回５年ぶりに開催しました。午後４時30分から学部食堂棟３階において、長島副会長の開会のあいさつの後、松宮幹事長の司会進行で開始しました。

来賓として兼坂 佳孝日本大学副学長・日本大学校友会副会長、武井 弘市日本大学校友会副会長・経済学部校友会会長及び他学部校友会会長、都道府県支部、桜門会の方々並びに関　泰一郎生物資源科学部長、学部執行部、同教員の方々、付属小学・中学・高等学校の校長先生および校友の方々総勢106名にご出席をいただき、校歌斉唱、鳥海学部校友会会長の挨拶、来賓のご挨拶、令和６度の表彰と続き、昭和32年に卒業された御年92歳の大先輩の乾杯の音頭で懇親会は始りました。例年どおり、各学科校友会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約２時間の懇親会の時間もあっという間に過ぎ、高橋副会長の中締め、酒川副会長の閉会のあいさつで午後６時35分来年の再会を約束し、令和６年度の懇親会は終了しました。

令和５年度　日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書

（自 令和５年４月１日　至 令和６年３月３１日）

日本大学生物資源科学部校友会

（収入の部）　（金額単位：円）

科目	令和５年度予算（A）	令和５年度決算（B）	予算と決算との比較（C=A−B）	摘要
1 前年度繰越金	34,329,907	34,329,907	0	
2 会費収入	33,201,000	33,835,000	▲ 634,000	
1）準会員還付金収入	32,700,000	33,430,000	▲ 730,000	準会員　6,686名 × 5,000円
2）正会員補助費収入	501,000	405,000	96,000	正会員　135名 × 3,000円
3 寄附金収入	0	0	0	
4 祝金等収入	1,000,000	0	1,000,000	
5 雑収入	400	440	▲ 40	預金利息
当年度収入合計	34,201,400	33,835,440	365,960	
収入合計	68,531,307	68,165,347	365,960	

（支出の部）　（金額単位：円）

科目	令和５年度予算（A）	令和５年度決算（B）	予算と決算との比較（C=A−B）	摘要
1 分会交付金	16,163,000	14,341,000	1,822,000	5分会に7,722千円、7分会に6,619千円を交付
2 経常費	10,540,000	8,358,775	2,181,225	
1）人件費	5,000,000	4,963,480	36,520	事務局勤務者給与等
2）本部分担金	470,000	340,000	130,000	日本大学校友会本部に対する支部会費及び委員会費
3）事務局運営費	1,200,000	821,778	378,222	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4）通信費	1,400,000	1,341,536	58,464	分会の会報発送費の一部支援、その他発送費
5）会合費	500,000	226,101	273,899	幹事会、執行役員会、各種会合等に係る諸経費
6）交際費	1,100,000	311,020	788,980	県支部、他学部校友会等の総会・懇親会祝金等
7）旅費交通費	800,000	311,080	488,920	出張旅費、運営補助費
8）支払手数料	70,000	43,780	26,220	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3 事業費	13,280,000	6,629,520	6,650,480	
1）総会費	1,500,000	406,059	1,093,941	総会開催時の諸経費
2）広報費	2,000,000	1,794,100	205,900	学部校友会会報の印刷製本代、ホームページ管理費
3）総務委員会運営費	20,000	0	20,000	
4）財務委員会運営費	20,000	0	20,000	
5）企画委員会運営費	20,000	0	20,000	
6）広報委員会運営費	70,000	0	70,000	
7）組織委員会運営費	50,000	0	50,000	
8）記念事業補助費	300,000	0	300,000	
9）準会員対応費	8,000,000	3,091,661	4,908,339	学部校友会が行う奨学金、藤桜祭運営資金の一部補助等
10）組織拡充計画費	200,000	200,000	0	宮城、山形、神奈川、高知の4県支部へ活動資金の一部補助
11）歴史展示室開設資金	50,000	0	50,000	
12）ホームカミングデー経費	50,000	0	50,000	
13）分会設立準備資金等	1,000,000	1,137,700	▲ 137,700	6学科との交付金の取扱事務委託契約に基づく支払
4 予備費	2,000,000	0	2,000,000	
当年度支出合計	41,983,000	29,329,295	12,653,705	
次年度繰越金	26,548,307	38,836,052	▲ 12,287,745	
支出合計	68,531,307	68,165,347	365,960	

令和６年度　日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書

（自 令和６年４月１日　至 令和７年３月３１日）

日本大学生物資源科学部校友会

（収入の部）　（金額単位：円）

科目	令和６年度予算（案）(A)	令和５年度予算	令和５年度決算（B）	５年度決算との比較（C=A−B）	摘要
1　前年度繰越金	38,836,052	34,329,907	34,329,907	4,506,145	
2　会費収入	32,465,000	33,201,000	33,835,000	▲ 1,370,000	準会員会費還付金の還付割合は1人当たり 5,000円で算出
1）準会員還付金収入	32,015,000	32,700,000	33,430,000	▲ 1,415,000	32,015千円 ≒(5年平均納入者 6,741人×伸び率 95%)×5,000円
2）正会員補助費収入	450,000	501,000	405,000	45,000	450千円 ≒(5年平均納入者 160人 ×伸び率 94%)× 3,000円
3　寄附金収入	0	0	0	0	
4　祝金等収入	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	総会・懇親会等の会費及び祝金
5　雑収入	482	400	440	42	預金利息
当年度収入合計	33,465,482	34,201,400	33,835,440	▲ 369,958	
収入合計	72,301,534	68,531,307	68,165,347	4,136,187	

（支出の部）　（金額単位：円）

科目	令和６年度予算（案）(A)	令和５年度予算	令和５年度決算（B）	５年度決算との比較（C=A−B）	摘要
1　分会交付金	15,855,000	16,163,000	14,341,000	1,514,000	15,855千円 ≒(初回納入者の5ヵ年平均 6,606人 x 伸び率 96% x 5,000円)x 1/2
2　経常費	10,710,000	10,540,000	8,358,775	2,351,225	
1）人件費	5,300,000	5,000,000	4,963,480	336,520	事務局勤務者給与等
2）本部分担金	340,000	470,000	340,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び委員会費
3）事務局運営費	1,200,000	1,200,000	821,778	880,269	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4）通信費	1,400,000	1,400,000	1,341,536	58,464	分会の会報発送費の一部支援、その他発送費
5）会合費	500,000	500,000	226,101	273,899	幹事会、執行役員会、各種会合等に係る諸経費
6）交際費	1,100,000	1,100,000	311,020	788,980	分会、県支部、他学部校友会等の総会・懇親会祝金等
7）旅費交通費	800,000	800,000	311,080	488,920	出張旅費、運営補助費（5委員会分は除く）
8）支払手数料	70,000	70,000	43,780	26,220	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3　事業費	13,280,000	13,280,000	6,629,520	6,650,480	
1）総会費	1,500,000	1,500,000	406,059	1,093,941	総会・懇親会開催諸経費
2）広報費	2,000,000	2,000,000	1,794,100	205,900	学部校友会会報の製本印刷代、ホームページ管理費
3）総務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
4）財務委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
5）企画委員会運営費	20,000	20,000	0	20,000	委員会開催経費及び運営補助費
6）広報委員会運営費	70,000	70,000	0	70,000	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7）組織委員会運営費	50,000	50,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
8）記念事業補助費	300,000	300,000	0	300,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9）準会員対応費	8,000,000	8,000,000	3,091,661	4,908,339	学部校友会が行う奨学金、準会員支援の原資
10）組織拡充計画費	200,000	200,000	200,000	0	宮城、山形、神奈川、高知の4支部へ活動資金の補助
11）学部史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	記念展示室の開設準備費用
12）ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
13）分会設立準備資金等	1,000,000	1,000,000	1,137,700	▲ 137,700	学科校友会のない6学科の交付金の受託管理分
4　予備費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	（ホームカミングデー開催経費を含む）
当年度支出合計	41,845,000	41,983,000	29,329,295	12,515,705	
次年度繰越金	30,456,534	26,548,307	38,836,052	▲ 8,379,518	
支出合計	72,301,534	68,531,307	68,165,347	4,136,187	

校友だより

農業農村の活性化に向けて

食品経済学科
2005年卒業　東海林　帆
（2010年博士前期課程修了）
一般社団法人SUM　理事

私は農業・農村の活性化に向けて、地域商社を主たる目的とした非営利型の一般社団法人を2020年に自己資本で設立しました。本業は栃木県茂木町役場職員であるため、社会貢献型の非営利・無報酬で運営をしております。法人では、耕作放棄地で育てた「もてぎ放牧黒毛和牛」や「茂木町産木材」のブランディングに取り組んでおります。興味のある方は当法人のホームページをご覧いただけますと幸いです。本稿ではこれまでの過程を述べさせていただきます。

本学食品経済学科を卒業後、父と同じ食品を主とする海運業に就くため、１年間英語を学びにオーストラリアで過ごしました。帰国後TOEIC705を取得し、食品商社に入社。タイ産マンゴー・中国産いちご・メキシコ産アボカドを現地で冷凍加工し輸入する仕事に従事しました。商社での１年目、中国産いちごの輸入サンプルから基準値を超える農薬が検出された瞬間、私は深く考えさせられました。海外の食品を輸入するだけではなく、国内の安全で高品質な第１次産業を守り育てることが、私の使命なのではないかと感じ始めたのです。輸入商社を退職し、栃木県足利市に位置するワイナリーにて、ワイン用葡萄の栽培及びワイン醸造の研修を半年間受講したのち、農学を学び直すため、本学大学院生物資源経済学専攻の博士前期課程に入学しました。引用論文で耕作放棄地が多いと指摘があった北関東、栃木県庁で実施したヒアリング調査では、県内で最も耕作放棄地の多い茂木町を案内されました。茂木町での農業研修ののち、新規就農者、特に有機農業者が耕作放棄地を解消するという仮説を実証するため、フィールドリサーチを実施し、有機農業における新規参入者の実態と課題に関する研究を修士論文としました。当時の茂木町農林課長からの入庁の誘いを受け、茂木町役場への就職を決めました。入庁後は農林課農林土木係を５年、住民課環境係を３年、総務課庶務係を４年、現在、農林課農林土木係に戻って３年目となります。2016年に日本財団が主催する住民主体のまちづくりプログラム「東京財団週末学校」に参加したことで、課題解決型の政策形成のノウハウを学び、その後は地域の仲間の協力を得て、職場の仲間とともに2020年に一般社団法人を設立するに至りました。地域資源のブランディングには食品ビジネス学科食品企業組織論研究室・佐藤奨平ゼミにもご協力をいただいており、「菓子の町をさらに盛り上げる新商品化プロジェクト」をPBLの手法で産官学連携し、農業・農村の活性化に寄与していただいております。これまで2021年に早稲田大学主催マニフェスト大賞で優秀成果賞、2022年に愛媛県主催行革甲子園でグランプリを受賞し、日本経済新聞には「スーパー公務員」などと取り上げていただけました。常に目的を重視し、結果にコミットすることを意識して活動しています。

私が今、茂木町で取り組んでいる活動はまだ道半ばです。しかし、本学で得た知識と経験、そして稗貫峻先生、下渡敏治先生、高橋巌先生、関わってくださった先生の皆様からのご指導のおかげで、着実に前進してまいりました。卒業生の皆さんとも、この活動を通じて新たな繋がりを持てることを楽しみにしています。ともに、地域の未来を創っていきましょう！！

ホームページ

2023.5.28
日本経済新聞

もてぎ放牧黒毛和牛１頭目の部分肉加工

2020年愛媛県主催行革甲子園グランプリ

森林を守るために

森林資源科学科
2018年度卒業　斎藤　知香
山梨県庁林政部
技師

森林は、世界の陸地面積の約３割、日本国土の約７割を占めており、私たちとの繋がりは切っても切り離せない大切な存在です。私は日本大学森林資源科学科で学んだ４年間で、森林資源の重要性を深く実感しました。異常気象の多発が問題視されている今こそ、森林資源が見直されるべきだと思います。

私は平成27年に日本大学森林資源科学科に入学しました。森林資源に関する分野を幅広く学び、研究室は森林経営学研究室（現在の森林共生学研究室）に所属しました。土地利用の変遷について研究し、森林が住宅地や農地等に変化していることを、研究を通し改めて痛感しました。また研究活動の過程で得たGISの操作経験は、現在の業務で大いに役立っています。林学を学ぶ中で、私たちは森林資源に守られていること、その大切な資源を守るためには正しく木を利用することが重要と知り、それを多くの人に伝えたいと思うようになりました。就職活動では林政に広く携わることができる、公務員の林業職を志望しました。

現在は、山梨県庁に林業職として入庁し、林政に関わる様々な業務を担当しています。山梨県は県土面積のうち78%が森林となっており、原生的な森林から登山客の訪れる森林まで多彩な自然環境があります。他にも県有林率が全国１位であることなど、特殊な特徴を持ち、豊かな森林資源を有する山梨県で、資源を守り生かすため日々業務に当たっています。これまで、森林環境税での森林整備事業、山地保全を目的とした治山堰堤の設計や監督、林業金融業務など、県としての様々な業務を担当してきました。林業は、従事者の減少や木材価格の低迷など、課題はまだ多くあります。その中でも、補助金を活用し県産材の活用推進を図ったり、林業以外の分野と連携し林業分野を盛り上げたり、ICTを推進し生産性の向上や働きやすい環境を整えるなど、状況改善に奮闘する事業者が数多くいる事を知りました。その人たちと連携し県として正しく支援することが、林業分野を活性化し、森林資源を守り活用することにつながると考え、日々業務に取り組んでいます。

森林資源を守るためには、地球上に住む人々が森林資源の大切さを共通認識として持ち、資源の適正な使い方を知ることが重要だと思います。山梨県庁での業務を通じて、一人でも多くの人に森林に関心を持ってもらえるよう、これからも努力したいです。

治山堰堤の段階確認（監督業務）をしている様子

保安林を調査している様子

デジタルコンパスで測量している様子

海洋生物資源科学科
2012年卒業　羽生　純
株式会社 桔梗屋
山梨県立富士湧水の里水族館

私は2012年に卒業後オリックス水族館（株）に入社し、当時オープン直後だった京都水族館に配属となり、晴れて夢だった水族館業界への就職を果たしました。その後、2016年に現在の職場である山梨県立富士湧水の里水族館に移り、今年７月からは同館の館長に就任しました。これまでの飼育員歴のほぼ全ては日本産淡水魚やオオサンショウウオを始めとする両生類など淡水生物の担当で、水族館の花形とされる海獣類や海水魚にはあまり触れてきませんでした。

特に淡水魚が好きという訳でもなかったので、就職直後は淡水生物の名前などほぼわからず、カエルを見れば全てアマガエル、館内の魚はドジョウとメダカ以外聞いたこともない種類ばかりでした。また、飼育経験もあまりなかったので、濾過槽の清掃すらろくに出来ず、とても飼育員と呼べるレベルではありませんでした。

ですが、わからないことや気になったことは自ら調べ、日々の作業の中で生物をよく観察して気づいたことなどを積み重ねていくことで自然と知識量は増えていき、対応力も鍛えられていきました。

また、飼育員に求められるのは生物の知識だけではありません。

現在の職場は大手の水族館と比べてとても規模が小さく、様々なことを自分たちでやる必要があります。特に新展示の作製などは、多くの園館ではコンセプトや原案を自分たちで考え、最終的にプロの手により設計・製造・設置されるのが普通です。しかし、それには多額の費用が発生し、数か月間のみ開催の企画展や一区画の展示ユニットを作るのに数百万掛かることもザラです。ですが、私たちのような小さな園館はそんな金額を簡単に出すことは出来ないので、本来プロに任せるところを全て自分で作製し、費用を抑えつつ理想の展示を作り上げています。最近では、寿司屋の店頭を模した展示を作製し、来館者から本物の飲食スペースと間違われるほどのクオリティで好評をいただいており、どれだけお金を掛けるかよりもアイデアが重要なのだと実感しています。

このような細かな積み重ねを地道に続けてきたことにより、職歴12年という短い期間で館長という立場を任せていただけるようになりました。

他園館のベテランの方々に比べればまだまだ若輩者ではありますが、これからもこの考え方や取組みを忘れずに、常にステップアップしていけるよう精進していきます。

本学部からは水族館業界へ多くの卒業生が就職していますので、今後何かの機会にお会いすることもあるでしょう。その際はどうぞよろしくお願いします。

新展示作製風景

二重回遊水槽

食品ロス削減に“食品添加物”を

食品生命学科
2014年卒業　中島　圭右
株式会社　タイショーテクノス

私は平成26年に食品生命学科を卒業し、同年大学院博士前期課程に入学、平成28年に修了しました。大学院時代に竹永章生教授の教えがきっかけで、それまで全く気にも留めていなかった食品添加物が食品の安全・安心の向上に大きく寄与していることを知り、食品添加物で広く事業展開をしている株式会社タイショーテクノスに入社しました。入社してからは研究所に勤務し、主に食品添加物製剤の開発業務を行っていますが、それ以外にも自社工場のHACCP導入時から立ち上げのメンバーとして自社製品の品質確保や、日本添加物協会の品質保証委員に選任され日本全体の食品添加物をより安全・安心に使用できるよう取り組みを行っています。

近年、世界的に食品ロスは深刻な問題となっており、国連では「2030年までに世界全体の一人当たりの食品ロスを半減させる（2015年より）」という目標を掲げています。一方で、食品の消費期限を延長するには、酸化による見た目や味の劣化、微生物の増殖などの問題を解決していく必要があります。そこで私は、食品それぞれの成分や物性を踏まえ最も期限を延長できる食品添加物の処方提案を行っております。例えば、日本人に好まれるマグロ加工品を例に挙げると、マグロはミオグロビンという色素たんぱく質を多く含むことで鮮やかな赤色をしているが、ミオグロビンは空気に長時間触れることで酸化が進み退色し廃棄の対象となってしまいます。こういった経緯から従来より酸化防止剤が使用されてきましたが、微生物制御を考慮せずに外観を維持してしまうと食中毒のリスクも高くなると考え、退色抑制と微生物制御の両立ができないか研究してきました。基本的には退色を抑える酸化防止剤はアルカリ側、微生物を抑える日持向上剤は酸性側のpHで効力を発揮するため二律背反の関係となっています。そこで私は酸性pHでも退色の抑制ができるものがないか研究を行い、貝類などのうまみ成分で知られるコハク酸を加えることでミオグロビンの退色抑制に効果的であることを見いだしました。このことで日持向上剤と併用して微生物制御との両立が可能となり特許化しました。このように、ただ外観を良くするだけでなく、微生物制御も両立させる真のロングライフ化が必要であると考えています。こうした取り組みが広く周知されることで食品添加物が食品の期限延長に切っては切れない存在となり、食品ロス削減の切り札として使用してもらえればと思います。

弊社の事業内容です。

弊社研究所の写真です。

年に一度行われる全社会議にて
功労賞を頂きました（写真右）。

富　嶽　会

生命農学科
連絡先：応用昆虫科学研究室
0466-84-3520　事務局長　畠山吉則
E-mail：hatakeyama.yoshinori@nihon-u.ac.jp

令和６年度 富嶽会総会の開催

令和元年（平成31年）度に開催されて以降、コロナ禍の影響を受けて中止となっておりました総会が本年５月11日（土）13時より１号館121講義室にて５年ぶりに対面形式にて開催されました。長島会長の挨拶から始まり、令和５年度事業報告、決算報告、監査報告ならびに令和６年度の事業計画および予算案が承認されました。総会終了後には磯部勝孝教授（作物科学研究室）および学科教員４名による講演が実施され、会場から活発な質疑があり充実した会となりました。

５年ぶりの対面形式での総会

続いて懇親会が開かれ、会員および準会員、そして学科教員らで親睦を深めることができました。

活動経過報告

本年３月25日に生命農学科125名の卒業生に対して富嶽会から記念品として多機能ボールペンが贈呈され、新たに富嶽会正会員（令和５年度卒77期）の仲間入りをしました。令和５年12月16日（土）には収穫祭の一環として「学科スポーツ大会」が体育館にて開催され、体を動かして楽しむことで学年間の交流を深めました。また、３年次および４年次学生を対象として、富嶽会正会員である学科卒業生を招いた就職活動支援行事を実施しました。

生命農学科の近況

令和５年度から学部新学科体制に改組され、このため本年度の生命農学科の学生は３年次から４年次生となっています。また、教員はアグリサイエンス学科（10名）、バイオサイエンス学科（２名）、環境学科（１名）、動物学科（１名）の各学科に分かれての所属となりましたが、生命農学科の各研究室は維持されています。

本年４月に２名の学科教員が准教授に昇格いたしましたので、両先生の主な研究テーマと、メッセージをご紹介します。

肥後 昌男 准教授

上吉原 裕亮 准教授

肥後昌男准教授（作物科学研究室）の主な研究テーマは「持続的な食料生産の実現に向けた土壌微生物叢の包括的把握と制御技術の基盤構築」でして、「アーバスキュラー菌根菌は、土壌中に菌糸を伸ばし、リン酸を宿主植物に供給できます。この土壌微生物を化学肥料の代替として活用する技術の開発を通した研究教育活動から、学科・学部の発展に貢献したいと思っています。」とのことです。また、上吉原裕亮准教授（園芸科学研究室）の主な研究テーマは「園芸作物における香り成分の代謝メカニズムの解明」でして、「近年、他大学でも新たに農学系の学科が立ち上がっています。農学分野が盛り上がるのは嬉しいことですが、ライバル校に負けないように、地に足を付けて研究・教育に力を入れていきたいと思います。」とのことです。

また、奈島賢児専任講師（遺伝育種科学研究室）が令和６年度園芸学会春季大会の授賞式（2024年３月23日東京農業大学）において、「園芸学会奨励賞」を受賞しました。受賞題目は「遺伝子情報の収集・活用による果実品質決定機構の解明と育種への応用」で、今回の受賞は、遺伝子・ゲノム情報を果樹の育種や品質決定システムの解明に活用してきた成果が評価されたことによるものです。奈島先生曰く、「植物資源科学科および生命農学科の卒業生と現学生の皆様と作り上げた研究成果を評価いただき、受賞となりました。これからも、パインアップルやアジサイをはじめとした園芸作物の研究を進めて参ります。一緒に研究をしてくれた皆様、支えていただいた皆様に、深く感謝を申し上げます。」とのことです。

園芸学会奨励賞受賞
奈島 賢児 専任講師

富嶽会事務局より

本年度より富嶽会の事務局長は畠山吉則准教授（応用昆虫科学研究室）、庶務理事は窪田聡教授（花の科学研究室）、庶務は東未来助教（農業生産技術研究室）が担当することとなりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

富嶽会のホームページ（https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~fugakukai/）にて令和６年度富嶽会総会の資料を掲載いたしましたので、どうぞご覧ください。　（井村喜之）

紫　友　会

生命化学科
連絡先：発酵化学研究室
0466-84-3945　事務局長　荻原　淳
E-mail：ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

令和６年度　第１回理事会開催

対面開催による令和６年度理事会が本年７月27日（土）14時より12号館５階生命化学科第２学生実験室で開催されました。高橋会長の挨拶から始まり、平成５年度事業・決算報告が事務局よりなされ、承認されました。また、監事より会計監査結果についての報告がなされ、承認されました。次に令和６年度事業計画・予算案等が審議され、満場一致で承認されました。また、理事の皆様同席のもと令和６年度第31回紫友会奨学生、第８回紫友会特別賞の授与式が開催され奨学生の皆様に奨学金、特別賞の方には賞金が授与されました。

紫友会奨学生表彰

活動経過報告

令和５年度第２回理事会（令和６年２月３日開催）にて、紫友会創設70周年記念事業の一環として生命化学科第1、第２学生実験室への視聴覚機器の贈呈について審議しました。その結果、満場一致にて贈呈されることとなりました。この視聴覚機器の贈呈は50周年記念事業にて開始された事業であります。60周年記念事業から10年が経過した機器類の更新が主な事業となりました。令和６年度第１回理事会開催時に理事の皆様にこれら機器を内覧いただきました。

紫友会では研究室単位での同窓会開催補助等を実施しております。本年11月30日（土）に紫友会創設70周年記念式典を開催します。記念講演会および記念交流会、研究室ホームカミングデーを企画します。校友の皆様の旧交を温める機会として是非ご参加下さいますようお願いいたします。

令和６年度 第31回紫友回奨学生、第８回紫友会特別賞決定

理事会の同日に奨学生選考委員会および特別賞選考委員会より厳正に選考された以下６名の奨学生および特別賞授賞者1名を決定しました。

３年次；小森　亜美、畑山　日陽里、鳥海　兼続
４年次；河中　菜月、高原　良充、高橋　佑太
特別賞；楊　皓誉（大学院２年生、栄養生理化学研究室）

生命化学科の近況

［在校生］

令和５年11月25日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。熱戦の結果、環境微生物学研究室が２年連続優勝しました。表彰式には紫友会役員の皆様にもご同席いただきました。卒業式は令和６年３月25日に日本武道館および学部大講堂にて令和５年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生114名が社会へ羽ばたきました。３密を避けるため指定された講義室に分散しての静かな伝達式となりました。現在、当学科には計271名（男子171名、女子100名）の学生が在籍しております。

紫友会杯争奪ソフトボール大会優勝　環境微生物学研究室

［学科教員動向］

令和６年３月31日付けにて高橋令二先生（環境微生物学研究室）が定年退職されました。高橋先生の長年にわたる献身的な学生教育研究指導に対し感謝申し上げます。西尾先生とともに4月1日から特任教授として学生教育にご助力いただいております。これにより、学科全体では教員14名(教授６名、准教授５名、専任講師２名、助教1名)、特任教授２名、合計16名の布陣で教育研究活動にあたっております。

紫友会事務局より

［事務局からのお知らせ］

令和６年11月30日（土）に紫友会創設70周年の記念式典を開催します。開催のご案内をハガキにて郵送します。また出欠確認はQRコードからGoogle Formによりお願いすることになりました。事務局では今後の連絡方法としてE-mailを活用したいと希望しております。ご協力をお願い申し上げます。この70周年記念行事が生命化学科学生在籍中の最後の大規模な紫友会行事となります。研究室訪問のきっかけとして奮ってご参加下さいますようお願いいたします。

紫友会のホームページはhttp://www.nihon-u-shiyukai.jpからご覧いただけます。また、インターネット上で「紫友会」と検索してください。同ウェブ上で連絡先等変更の手続きができますのでご活用ください。

（荻原　淳）

角　笛　会

獣医学科
連絡先：獣医生化学研究室
0466-84-3634　事務局長　岡林　堅
E-mail：okabayashi.ken@nihon-u.ac.jp

令和６年度 角笛会総会・日本大学獣医学会 合同大会の開催

令和６年６月29日（土）、日本大学生物資源科学部１号館121講義室において、令和６年度角笛会総会および第59回日本大学獣医学会が開催されました。日本大学獣医学会は渋谷久学会会長のもと、９題の一般公演と獣医学科／獣医保健看護学科の教員３名（関口尚希先生、山﨑敦史先生、松鵜彩先生）による教育講演が行われました。

角笛会総会では鳥海弘会長（昭和50年卒）から挨拶があり、総会は小川健司議長の進行で審議が行われ、令和５年度事業活動および会計収支報告、令和６年度事業計画および予算案等が審議されました。角笛会の発展に貢献した角笛会功労者として、伊藤昌司氏（群馬県）、渡辺裕氏（栃木県）、塘田健治氏（熊本県）、佐藤傅一氏（福島県）、大内毅氏（福島県）、三浦照生氏（福島県）、森田修三氏（福島県）、宮川保氏（新潟県）、伊藤彰彦氏（新潟県）、西山栄一氏（新潟県）の10名、角笛会特別功労者として蔵田幸男氏（鹿児島県）の１名に賞状と記念品が授与されました。

世界獣医師会次期会長 藏内勇夫先生記念講演

令和６年度角笛会総会および第59回日本大学獣医学会の開催に合わせ、藏内勇夫先生（昭和54年卒）による記念講演を開催しました。藏内先生は、平成25年に日本獣医師会会長、令和４年にアジア獣医師連合（FAVA）会長に就任し、令和６年４月16日に南アフリカで開催された世界獣医師会総会において、日本人で初めて世界獣医師会（WVA）の次期会長に就任しました。卒業生だけでなく教員や学生まで多くの方が熱心に聴講し、感銘を受けていました。

藏内勇夫世界獣医師会次期会長

第19回 日本大学医療系同窓・校友学術講演会

第19回日本大学医療系同窓・校友（医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部同窓会、獣医学科校友会・角笛会）学術講演会が４年ぶりに開催されました。松戸歯学部同窓会が担当で、令和５年11月25日（土）13時30分より、日本大学会館（市ヶ谷）大講堂にて、「日大医療人の実力－輝く同窓生－」の統一テーマにシンポジウム形式で実施されました。日本大学学長 酒井健夫先生に来賓としてご挨拶を頂戴し、角笛会からは丸山総一先生（昭和57年卒）が「One Healthと人獣共通感染症の制御」と題して講演いただきました。講演後に開催する総合討論では自由な情報交換が行われました。講演会後の懇親会は、学部を超えた懇親の輪が広がっておりました。

獣医学科の近況

【獣医師国家試験】

第75回獣医師国家試験が令和６年２月14日、２月15日にTOC有明（東京会場）にて行われました。日本大学獣医学科から121名が受験し、104名が合格しました。合格率は86.0%（全国平均84.4%）でした。

【卒業生および新入生】

本年３月25日に127名（男子51名、女子76名）が本学科を卒業しました。また、本年４月には139名（男子54名、女子85名）の新入生を迎え、令和６年４月27日にオランジェ（食堂棟）３階にて新入生歓迎会が行われました。

【学科人事】

本年３月をもって丸山総一教授（獣医公衆衛生学研究室）、髙橋朋子専任講師（獣医産業動物臨床学研究室）が退職されました。本年４月に関口尚希助教（獣医内科学研究室）、山﨑敦史助教（獣医外科学研究室）、丸山総一特任教授（獣医公衆衛生学研究室）が採用されました。また、合屋征二郎先生（獣医放射線学研究室）、山口卓哉先生（獣医薬理学研究室）が専任講師に昇格されました。

（木庭　猟達）

丸山総一教授

満喜葉会

動物資源科学科
連絡先：ミルク科学研究室
0466-84-3658　事務局長　川井　泰
E-mail：kawai.yasushi@nihon-u.ac.jp

活動報告

令和６年３月に116名（女子68名、男子48名）が動物資源科学科を卒業し、新たに満喜葉会正会員（令和５年度卒77期）の仲間入りをしました。卒業者全員に満喜葉会から記念品（オリジナル印鑑付ボールペン）を贈りました。卒業生の成績優秀者２名には満喜葉会会長賞を授与、奨金を贈呈しました。また卒業アルバムの制作にあたってはその費用の一部を補助しました。令和６年４月の新学期ガイダンス時には新４年生と新３年生の成績優秀者４名に満喜葉会会長賞を授与、奨金を贈呈しました。

学科の状況

動物資源科学科責任者（旧・主任）
川井　泰

新型コロナウィルス感染症により欠席する学生はまだ居りますが、昨年来と比較して大きく減少しており、喜ばしい状況です。しかし一難去ってはまた一難で、南国のスコールのような局所的大雨の増加や気温上昇は、過去の統計をあたるまでもなく誰もが実感しているところです。また今年は雷も多いようで、幸いにも六会周辺への落雷は数回ですが、神奈川県をはじめ関東各地では相当数の落雷が記録されており、こちらも気候変動の影響と考えざるを得ません。講義等で雷の怖さを伝えておりますが、雷雲は直径10km以上であり、雷音が聞こえたら相当に近づいていると認識し、直ちに避難することが大事のようです。

令和５年４月の学部改組から１年以上が経過し、動物資源科学科は３年生以上の科目を中心に授業を実施しております。新学科では落ち着くまで科目の時限・曜日変更が生じる可能性のある中、本学科では履修者無しとなった科目の中止や振替科目の設定も含めましてカリキュラム上での大きな変更はありません。また、卒業論文に取りかかる４年生への進級には90単位以上の取得が必要ですので、後期も引き続き勉学に励んでいただくことを願っているところです。

今年度の動物資源科学科の状況は以下の通りです。

在籍者は７月１日現在にて４学年合計276名（男性127名、女性149名）で、定員（272名）の充足率は101.6％となっています。

教員の状況ですが、令和６年３月に学科の発展にご尽力いただきました大西彰教授（動物生殖学）、梶川博教授（飼養学）が定年によりご退職されました。

着任および昇格者は居りませんで、令和６年度の動物資源科学科の研究室と教員構成は、動物生殖学（三角浩司准教授）、飼養学（高木早苗専任講師）、草地学（佐伯真魚教授）、動物組織機能学（山室裕教授、園田豊専任講師、相澤修専任講師）、ミルク科学（川井泰教授）、野生動物学（岩佐真宏教授、明主光助教）、伴侶動物学（福澤めぐみ准教授）、学科教授室（細谷忠嗣教授）、動物育種学（長嶺慶隆特任教授）、畜産マーケティング（小泉聖一特任教授）、学科事務（織田由紀子実習助手、宮治久美実習助手）となっています。

就職状況では、令和５年度の就職希望者に対する就職率が98.1％で、例年通りの就職率となりました（令和４年度93.6％、令和３年度99.1％、令和２年度97.1％、令和元年度98.5％）。

内訳の産業分類別では官公庁・団体とメーカー（食品）が同率の13.9％で最も多く、次いでメーカー（農・林・鉱・漁業・畜産酪農）12.9％、サービス業（調査・コンサルタント等）が11.9％、医療・福祉施設9.9％の順でした。

また、官公庁・団体の就職は、人数順で農林水産省、全国酪農業協同組合連合会、県庁・市役所、中央畜産会、農業協同組合、家畜改良センター、県警で、進学（含む専門学校）は３名となっています。

なお、昨年はサービス業（調査・コンサルタント等）が16.2％で最も多く、この度も順位の変動が認められています。

（西野　松之）

ICMJ大学総合での入賞はのがしましたが、個人総合で平川君（３年生）が７位と健闘しました（右：豚枝肉部門のジャッジ）

家畜人工授精講習会の実習、牛そして豚の資格も取得できます（付属農場）

いもづる会

食品ビジネス学科
連絡先：学科事務室
0466-84-3420　事務局長　高橋　巌
E-mail：imozurukai@gmail.com

学科80周年記念式典

旧農業経済学科・旧食品経済学科から続く食品ビジネス学科は、2023年に80周年を迎えました。2023年11/25（土）13～16時、本学部大講堂において、80周年記念式典・記念講演・シンポジウムが盛大に開催されました。

第1部の記念式典（実行委員長清水みゆき教授、司会阿久根優子准教授）では、学部執行部ならびに学部校友会から温かいご祝辞を賜りました。また、本会副会長 飯嶋雄次氏（1983年卒・紀文西日本㈱代表取締役社長・現㈱紀文食品取締役）や小島麻由美氏（1988年卒・㈱日本食糧新聞社営業本部記者）ら多くの学科卒業生から祝電を頂戴しました。

第2部の記念講演（司会宮部和幸教授）では、学科卒業生である塚越英弘氏（1990年卒・伊那食品工業㈱代表取締役社長）より「人と事業が育つ風土をつくる年輪経営」と題して熱いメッセージをお贈りいただき、食品ビジネス界のリーダーを志す学生の心に火を灯しました。〔＊「食ビの人々」ゲストスピーカー事業：記念講演のダイジェスト版は学科YouTubeをご覧ください。〕

続けての記念シンポジウムでは、本学科に特徴的と言える教育方法が明確化しつつある中で、学科80周年、さらには学部改組にあたって本学科のさらなるグレードアップを図るため、「食に関する幅広く深い、新しい学びを探る」をテーマに報告とディスカッションを行いました。川手督也教授を座長として、学科教員からそれぞれ報告（報告1・佐藤奨平専任講師「PBL型の授業導入の試み－食品企業経営学の立場から－」、報告2・谷米温子准教授「PBL型の授業導入の試み－フードコーディネート論の立場から－」、報告3・若林素子教授、清水友里専任講師「文系出身学生に配慮した食品科学の講義と実習・実験」、報告4・久保田裕美准教授「デジタル化に対応したアクティブラーニングの試み」）が行われました。また、以上の報告に対して、学生から4年生越永美音さん、卒業生から松原晋さん（1988年卒・株式会社ニッスイ）、教員から高橋巌教授によってコメントが行われました。〔＊記念シンポジウムで報告された論稿については、学術誌『食品経済研究』第52号・2024年3月・電子版をご覧ください。〕

日に日に新たに、80周年

記念シンポジウム

大賀圭治先生による乾杯

閉会にあたっては、本会青木泰祐会長（高橋事務局長代読）より「学科に期待すること」を述べていただくとともに、学科からは特別表彰として横川屹顧問・前会長に対し感謝状と記念品が贈呈されました。学生を含む参加者全員による記念撮影で記念式典を締め括った後、役員・教職員との交流会を行いました。食品ビジネス界を中心に活躍する1万人超の学科卒業生に見守られながら、20年後の学科100周年に向け、学科・本会ともに鋭意努力していく所存です。

幹事会の開催

6/1（土）に開催された幹事会では、卒業生や役員だけではなく、学科からも多くの教員が参加しました。学生の研究・教育・就職活動に対する支援を行ってきた本会の目的と役割を再確認する機会となりました。学科主任・小野洋教授からは、昨今の入試状況や学科の取り組み等について説明がありました。

卒業生と教職員との懇親会

幹事会では、2023年度の活動・会計報告、2024年度の活動計画案・予算案等が審議・承認されました。〔＊活動報告・計画は本会HPからご覧ください。〕卒業生・教職員が参加する懇親会では、初参加の三菱食品㈱執行役員・フードサービス本部長の佐藤達也氏（1989年卒・由利本荘市ふるさと応援大使）から学生時代の思い出や食品ビジネス学科への期待等が語られるなど、盛り上がる一幕がありました。学科新中長期計画で示された産学連携の強化が着々と図られつつあります。

藤井正気相談役（前副会長）が学部校友会で表彰

通算16年にわたり、幹事・副会長等役員を務められた藤井正気相談役（前副会長）が、7/13（土）に開催された学部校友会総会・懇親会において表彰されました。藤井相談役は、「諸先生を囲み、旧交を温め、明日の活力にし、母校の更なる発展を祈念する」合言葉として“WONDERFUL NAKAMA”を掲げ、学科75周年・学科校友会70周年記念事業を実行委員長として先導されました。来場者は約300人集まり、盛大な祝賀会となったことは記憶に新しいところです。また、学部校友会の副会長としても長年活躍された功績が認められ、今回の表彰に至りました。今後は相談役として、大所高所から本会の運営についてアドバイスをいただきます。

藤井正気氏（左）

食品ビジネス学科の近況

【卒業生・在校生】

2023年度に138名（第78期）の学生が卒業し（正会員総数10,609名）、本会からは2名に学業優秀者表彰、8名に特別奨学賞（TOEIC 800点・留学支援・サポートスチューデント・専門フードスペシャリスト合格）を授与しました。2024年度新入生は154名を迎え、5/18（土）には5年ぶりのスポーツフェスタで大いに交流を深めました。新カリキュラム2年目として、食品ビジネス基礎演習（1年次）での全員が体験するプレゼンテーション、ミクロ経済学（〃）、メディアリテラシー（〃）、食農教育実習（旧食料生産実習・2年次）が始動しています。

【教職員の動き】

2024年1月元教授（産業社会学研究室）・元学科主任の高坂鉄雄先生（農経10期・1956年卒）が逝去されました。先生は長い間本会事務局長を務められ、本会発展に尽力されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

2024年2月加藤弘祐助教（マーケティング研究室）が母校である千葉大学園芸学部食料資源経済学科助教へ転籍されました。4月には佐藤奨平専任講師（食品企業組織論研究室）が准教授へ昇格しました。6月には日野雅美さんが学科事務室に着任しました。8月には谷米温子准教授（フードコーディネート研究室）が海外派遣研究員（派遣先Institut Agro Montpellier）として渡仏されました。先生方の研究教育のさらなる発展を願います。

情報発信は、Eメール・FB等で行っております。登録をお願いいたします。

（1）いもづる会ホームページ
http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/
「いもづる会」で検索

（2）いもづる会Facebook（いもづる会　校友会）
https://www.facebook.com/imozurukai/
Facebookで友達申請をしてください。

（佐藤　奨平）

あすなろ会

森林学科
連絡先：森林環境保全学研究室
0466-84-3675　小坂　泉
E-mail：asunaronichidai@gmail.com

あすなろ会活動報告

【総会】

令和５年度あすなろ会総会を令和５年11月11日、本学部10号館にて開催しました。令和６～７年度の役員改選で、会長に東郷聖史氏、副会長に渡辺隆之氏と市川雅也氏が就任しました。会則の一部改正、会長交代と令和５年度役員紹介が報告され、令和４年度事業報告、決算報告、監査報告並びに次年度の事業計画案及び予算案について審議され、承認されました。総会の後は、食堂３階で懇親会を開催しました。

懇親会の様子

令和４年度では、あすなろ会から学科・学生に対し、新入生に入学記念品（シャープペン）授与、１年生の必修科目の実習の実施補助、各種実習の補助学生への交通費補助、オープンキャンパスの実施補助、卒業式でのあすなろ会長賞授与および卒業記念品授与、学会発表に挑戦する学生への旅費補助の支援をして頂きました。

学科の近況

【卒業生・新入生】

令和６年３月25日には、115名（男子90名、女子25名）が本学科を卒業しました。研究室において成績優秀かつ研究室に貢献した学生への「あすなろ会会長賞」を例年通り授与し、９名に表彰状と記念品が贈られました。

令和５年４月より「森林学科」がスタートし、令和６年４月に新学科第２期生として116名（男子89名、女子27名）を迎えました。新入生には、あすなろ会からご支援を頂き、入学記念品を贈りました。新学科１年生の前期必修の森林基礎実習では、少人数のグループに分けて、教員が個別に実習をします。藤沢演習林でキノコの観察やチェーンソー演習をするほか、箱根で植生観察や多摩森林科学園に行くフィールド実習、実験室での実験等を行います。また、４月に秦野市の弘法山ハイキングコース（約7.5km）を歩きました。

森林基礎実習・藤沢演習林での一コマ

森林資源科学科の学生には就職支援として、林野庁や都道府県を目指す学生向けの学科主催の公務員講座と、３年生向けの就職支援イベント「卒業生による就職情報交換会（10月11日）」を実施しました。造園・緑化、コンサル、建築・住宅、公務員、林業、メーカー等の様々な業種で活躍されている22名の卒業生にご参加頂きました。参加した学生は卒業生と活発に情報交換をしていました。近年、企業の採用活動の早期化の傾向があり、３年生は夏頃からインターンシップ等に参加し就活を本格化させます。

昨年度（令和５年度）は20名が林野庁や都道府県庁（林業職）等の公務員に合格しました。また、今年度（令和６年度）は難関の国家公務員総合職（森林・自然環境）に院生１名と学部生１名が最終合格しました。民間企業への就職を目指す学生も含め、引き続き学科で支援して参ります。

【学科の人事】

本年３月、森林環境保全学研究室の阿部和時先生が退職されました。平成17年に日大に着任されてから19年間、教育・研究活動を通じて多くの学生や大学院生を指導して頂きました。また学科主任、学部執行部を務め、学部・学科の運営に大きく貢献されました。

また、森林共生学研究室の杉浦克明先生が教授、バイオマス資源化学研究室の毛利嘉一先生が専任講師に昇格されました。

【学科の体制と教員配置】

令和５年度より森林学科は３つの分野と６つのテーマから構成されています。

森林エコシステム分野　生態（安部哲人教授・上村真由子准教授）、微生物（太田祐子教授・松倉君予助教）

森林サービス分野　森林環境（瀧澤英紀教授・小坂泉准教授）、共生（吉村充則教授・杉浦克明教授・園原和夏専任講師）、

森林バイオマス分野　バイオマス（木口実教授・毛利嘉一専任講師）、エコマテリアル（堀江亨教授・倉田洋平専任講師）

あすなろ会ホームページ

下記アドレス等にて、あすなろ会や学科の近況がご覧になれます。

あすなろ会ホームページ
http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html

学科ホームページ
https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~forestry/

NUBS_FOREST_FSR

インスタグラムのQRコード

（園原　和夏）

桜　水　会

海洋生物資源科学科
連絡先：海洋環境学研究室
0466-84-3686　事務局長　荒　功一
E-mail：ara.koichi@nihon-u.ac.jp

令和５年度以降の桜水会の運営について

昨年度の本会報で「令和５年４月の本学部改組に対応して桜水会は、海洋生物資源科学科および海洋生物学科の在学生（準会員）および卒業生（正会員）を対象とした学部校友会支部として運営することとなる」ことを既に報告した件について、令和６年１月１日～31日に開催された桜水会総会のウェブ審議を経て、正式に決定されました。

令和６年度桜水会総会の開催予定

令和６年10月26日（土）・27日（日）に実施される学部祭（藤桜祭）に合わせ、「令和６年度桜水会総会」が対面（およびオンライン）での開催、あるいはそれに準ずるイベントの実施を予定しています。総会では、令和５年度の事業報告、決算報告、監査報告ならびに令和６年度の事業計画案、予算案、令和５年度以降の桜水会の運営方針などが審議される予定です。開催の詳細が決まりましたら、海洋生物学科HP（http://www.msr-nihon-university.org/）でお知らせしますので、ご確認くださいますようお願い申し上げます。

学科・準会員への支援

本年度前期の授業は、４月９日から7月29日までの期間に開講されました。前期の必修科目である「海洋生物資源科学概論」（1年次必修科目）では、将来就きたい職業を見つけるための職業研究の一環として、社会で活躍する本学科卒業生による体験談の講演が行われました。7月19日には相川健志氏（51期：特定非営利活動法人Dream eggs ゆめたま）、7月26日には森 美里氏（66期：共立製薬株式会社）と榛葉溪介氏（70期：株式会社科学飼料研究所）の計３名の卒業生にご講演いただきました。また、「特別講義」（3年次選択科目）では、本学科の「海洋生物資源応用コース」（JABEE対応コース）の外部評価委員として、長谷川勝治氏（20期：元焼津水産高校校長）、楯 慎一郎氏（47期：いであ株式会社、技術士）、中瀬浩太氏（31期：五洋建設株式会社、技術士）、市橋 理氏（37期：アジア航測株式会社、技術士）、田角由香氏（日本ミクニヤ株式会社、技術士）、および守谷圭介氏（道総研食品加工研究センター、技術士）の６名に技術者教育の一環として講演していただきました。

上記のほか、1年次の学科オリエンテーションとして地引網実習や必修科目である「海洋基礎実習I」の熱中症対策などの支援を行いました。本年度は、下田臨海実験所で乗船実習や磯採集、磯釣り・釣果物の観察などを実施し、また1年次用の学科Tシャツの作製と配布も完了しています。今後は、在学生の学会参加費の補助や卒論コンペ（塚本賞）の支援、卒業生への記念品の贈呈などを予定しています。

学科Tシャツを着てスポーツフェスタに挑んだ1年生たち。活気あふれる一枚です！

学科の近況

【新入生・在学生】

本年４月に海洋生物学科として162名（男子118名、女子44名）の新入生を迎え、新旧学科を合わせて現在606名（男子427名、女子179名）の学部生が在籍しています。また、大学院には、４専攻にわたり、博士前期課程に34名（男子24名、女子10名）、博士後期課程に２名（女子２名）が在籍しています。

学科のホームページでは、一昨年度から中学生・高校生を対象に、SNSを通じて学科の研究活動や学生生活の情報を発信しています。昨年度はフォトコンテストを開催し、学部生や大学院生が撮影した多くの写真が桜水会報などに華を添えました。今年度もオープンキャンパスに合わせ、より多くの受験生に学科SNSを知ってもらうために、ハッシュタグを用いた拡散キャンペーンを実施しました。インスタグラムとX（旧ツイッター）のQRコードを掲載しておりますので、ぜひフォローをお願いします。

インスタグラム
QRコード

X（旧twitter）の
QRコード

【学科教職員】

令和５年度をもって、本学の教育研究を長年にわたり担ってこられた朝比奈潔先生がご退職されました。長年のご貢献に対し、心より感謝申し上げます。令和６年度には、新規の教職員採用はありませんでしたが、現在、専任教員16名、特任教授１名の体制で学科を運営しています。また、学科事務室は新旧学科共通で運営されており、宮治久美実習助手から河野直子実習助手に変更されました。学科事務室は引き続き濱田奈々実習助手との２名体制で運営されています。

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会の活動などについて、事務局までぜひお知らせください。桜水会のホームページは、リニューアルされた海洋生物学科HP（http://www.msr-nihon-university.org/osui_news/）内に併設されていますので、ぜひご利用ください。同HPでは、連絡先の変更手続きも可能です。桜水会は、2021年３月より会報を完全オンライン化し、連絡方法を従来のハガキ送付からメール送付に移行しました。メールアドレスの登録や変更は、桜水会HPでお願いいたします。　（福島　英登）

工　学　会

生物環境工学科
連絡先：地域環境保全学研究室
0466-84-3836　事務局長　笹田 勝寛
E-mail：sasada.katsuhiro@nihon-u.ac.jp

会員動向

正会員数は、令和５年度卒業生128名を加え、令和５年３月現在で8297名となりました。現役学生である準会員は、1年生１名、2年生９名、3年生111名、4年生115名で、合計236名となっています。

学科活動

2023年９月30日（土）に学部内111講義室～113講義室を使用して、学科学生対象の就職支援セミナー（後援：工学会）を開催しました。参加の団体・企業の条件としては、１名以上の本学科卒業生が在職し、かつ当日に説明者として参加することにしており、学生が質問しやすい環境を作っています。また、学科主催ではありますが、工学会からは卒業生の団体・企業の紹介、飲料等の提供など後援を行っています。今年度のセミナーでは、ご参加いただいた公共団体（公務員）は14団体、民間企業は12社を数え、当日は企業や団体組織の説明だけでなく、就職活動時期に気を付けることなど身近な相談まで活発に行われていました。生物環境工学科の学生が全員卒業した後の運営方法はこれからの検討事項となりますが、可能な限りの支援を行っていきたいと考えています。

就職支援セミナーの一コマ

教員人事

令和６年度の生物環境工学科は、以下の体制（教授５名、准教授６名、専任講師２名、助教１名、特任教授３名）で教育研究活動を行っています。専任教員氏名の後にあるカッコ内は学部改組後の新しい所属学科名になります。

水資源環境工学
長坂貞郎 教授（環境）、
山嵜高洋 専任講師（環境）
地域環境保全学
笹田勝寛 准教授（環境）、
對馬孝治 准教授（環境）
地球環境・資源リモートセンシング
串田圭司 教授（環境）、
宮坂加理 助教（環境）
動物生態環境学
三谷奈保 准教授（動物）
建築・地域共生デザイン
栗原伸治 教授（国際共生）、
藤沢直樹 専任講師（環境）
環境土木施設工学
斉藤丈士 教授（環境）、
川本治 特任教授
生物生産システム工学
川越義則 准教授（アグリサイエンス）、
梅田大樹 准教授（アグリサイエンス）、
宮本眞吾 特任教授
生物生産流通施設学
都甲洙 教授（食品開発）、
佐瀬勘紀 特任教授
バイオメカトロニクス
内ケ崎万蔵 准教授（環境）

令和５年度からの学部改組により、生物環境工学科の専任教員はそれぞれ新学科に移動となりましたが、今年度におきましても７号館内の居室などの変更はありません。

準会員への支援

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援を行っています。令和５年度の卒業生には卒業記念品（印鑑付きボールペン）の贈呈、及び卒業生表彰（工学会長賞）を行いました。

学位記伝達式の一コマ

工学会長賞は小倉裕己さん、矢坂萌乃さん、大迫春稀さんの３名となり、学位記伝達式にて受賞者の公表が行われました。コロナ禍以前は卒業生に対する記念品の贈呈と工学会長賞の表彰を謝恩会で行っておりましたが、今年度につきましても謝恩会の開催が見送られたことから、学位記伝達式の場で行いました。

事務局より

昨年度校友会報でもお知らせしましたとおり、生物環境工学科の在学生が全て卒業するまでの期間、工学会は存続しますが、３年後には校友会の既定により分会の資格を失い、現状においては「準分会」となる可能性があります。準分会となった場合でも、これまでと同様の親睦活動が行えるよう、学部校友会および学部当局に対して要望してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

工学会ホームページが新しくなりました。会員の皆様には今後もホームページでの情報発信に努めてまいりますので、お時間のある際に是非ご覧ください。また、下記E-mailアドレスにメールいただければ定期的な情報も配信いたしますので、ご活用ください。

工学会ホームページ
https://bae-kougakukai.org
お問い合わせ
E-mail：info@bae-kougakukai.org
（工学会公式）

（梅田　大樹）

ＦＴ会

食品生命学科
連絡先：食品資源利用学研究室
0466-84-3980　成澤 直規
E-mail：narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

ＦＴ会活動報告

【ＦＴ会理事会および総会の開催】

ＦＴ会理事会について、本年度は４月13日（土）に本学湘南キャンパスにて開催されました。これにより令和６年度事業計画案および会計収支予算等に関して承認されました。また、ＦＴ会総会は６月８日（土）に開催されております。なお、昨年度より学部改組に伴い新設された食品開発学科の入学者をＦＴ会準会員としております。

【準会員（在学生）への活動】

ＦＴ会では準会員の活動援助として、４年生へ卒業記念品の贈呈を行いました。４年生の学業優秀者に贈られるＦＴ会長賞には佐々木智穂さん（食品微生物学研究室）が選出され、千野誠ＦＴ会会長より贈られました。

卒業式 FT会長賞 佐々木智穂さん

全学生に対して資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。１年生の学部スポーツフェスタに対して、Ｔシャツ作製の補助を行いました。

新入生ガイダンスの様子

成績は準優勝となり、大いに盛り上がりました。

スポーツフェスタの様子

学科の近況

【食品開発学科について】

食品開発学科は、食品開発の基盤となる基礎理論、食品の機能や栄養に基づく人の健康、および衛生・分析技術に基づく安全管理といった食品創りに関わる科学的知識と技術を修得し、安全かつ健康に役立つ食品の創造開発を通じて、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。

【在学生と卒業生】

令和４年度はＦＴ会59期生141名の学生が卒業し、社会に巣立っていきました。令和６年度 食品開発学科新入生145名を迎え、準会員数は食品生命学科297名、食品開発学科295名となっています。令和６年８月３日・４日に開催されたオープンキャンパスにおいて、卒業生の高橋夏乃さん（厚生労働省 健康・生活衛生局、旧食品衛生学研究室出身）に「食品衛生監視員が語る大学における学びと現在の仕事」と題してご講演をいただきました。

【学科人事】

竹永章生先生が定年退職となりました。竹永先生はこれまで長きにわたりＦＴ会の発展にご尽力を頂きました。ここに、衷心より感謝の意を表します。令和６年度４月より京井大輔先生（食品微生物学研究室）が専任講師に昇格されました。

令和６年度 食品開発学科は以下の構成となっております。

○12号館５階
食品微生物学研究室
（鈴木 チセ 教授、河原井 武人 専任講師、京井 大輔 専任講師）（旧食品生命学科）
食品加工学研究室
（阿部 申 准教授）（旧食品生命学科）
食品素材科学研究室
（鳥居 恭好 准教授）（旧食品生命学科）
食品化学工学研究室
（陶 慧 准教授）（旧食品生命学科）
食品生命学科特任教授室
（荻原 博和 特任教授）

○12号館６階
食品資源利用学研究室
（竹永 章生 特任教授、成澤 直規 准教授）（旧食品生命学科）
食品生命機能学研究室
（細野 朗 教授、津田 真人 准教授）（旧食品生命学科）
食品栄養学研究室
（長田 和実 教授、大畑 素子 准教授）（旧食品生命学科）
食品分析学研究室
（松藤 寛 教授、大槻 崇 准教授）（旧食品生命学科）

○12号館３階
食品化学研究室
（熊谷 日登美 教授、山口 勇将 専任講師）（旧生命化学科）

○５号館２階
食と健康研究室
（山下 正道 准教授）（旧くらしの生物学科）

○６号館４階
ミルク科学研究室
（川井 泰 教授）（旧動物資源科学科）

○７号館３階
生物生産流通施設学研究室
（都 甲洙 教授）（旧生物環境工学科）

事務局より

ＦＴ会のホームページ（http://ftkai.net/）では総会のご連絡など各種イベント情報を公開しています。また、ＦＴ会では同窓会・同期会の開催に際し、一部補助を行っています。ホームページからお問い合わせください。

（成澤　直規）

拓　友　会

国際地域開発学科
連絡先：熱帯資源作物研究室
0466-84-3468　事務局長　倉内 伸幸
E-mail：kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

活躍する卒業生

青年海外協力隊（コミュニティ開発）
新井佐和さん（2020年度卒）

2024年６月から、ウガンダの現地NGOであるUWESO（Uganda Women's Effort to Save Orphans）が実施するプロジェクトUSAID-funded Orphans and Vulnerable Children（OVC）North East Activity（NEA）の経済能力強化・青少年部門に配属され、本部であるムバレ事務所に勤務しています。UWESOはHIV感染孤児・脆弱な青少年・ヤングマザーなどをターゲットとしており、本プロジェクトは2022年10月からウガンダ東部６県にまたがって５年計画で実施されています。事務所スタッフだけでなく、フィールドスタッフを含めるとムバレだけでも100名を超えるスタッフが、年間30,000人を超える人々への包括的なサポートを実施しています。現在唯一の外国人スタッフということもあり、特にマーケットでの活動時は批判的な態度を取られることもしばしばあります（お金を持っている外国人が支援するべきだという考えから）。その度に、自分は現地の人々とどの様な関わり方が出来るのか改めて考えさせられる一方で、フィールドではいつも人々の助け合いの精神を強く感じています。ウガンダに来て３ヶ月が経ちましたが、毎日彼らからたくさんの事を学んでいます。これからも全ての子どもと青少年たちが健康で機会に満ちた世界で暮らせるように、彼らと共に活動していきます。

ウガンダの農村で社会開発の活動を行う新井佐和さん

令和５年度拓友賞授与

令和５年度の拓友賞は、アンナ・ボルトニクさんが国際地域開発学科より推薦され、令和６年３月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。

アンナ・ボルトニクさん（左）、北原幸典会長（右）

卒業者の進路状況について

令和５年度卒業者の進路状況は、就職100名、就職活動中２名、進学３名、その他11名となり、就職希望者（102名）に対する就職率は98.0％となりました。

青年海外協力隊派遣状況

（派遣予定）

尾出悠斗（食用作物・稲作栽培）：
令和７年３月派遣予定　2024年度卒、ウガンダ

（派遣中）

山崎るうな（食用作物・稲作栽培）：
令和５年４月より２年間（派遣中）、ウガンダ

新井佐和（コミュニティ開発）：
令和６年４月より２年間（派遣中）、ウガンダ

金井美紀（食用作物・稲作栽培）：
令和６年４月より２年間（派遣中）、ウガンダ

（帰国）

辻愛友（食用作物・稲作栽培）：
令和４年１月より２年間、ウガンダ。現在大学院生として在学中

在学生の近況

令和６年７月現在、１年生２名（男子２名・女子０名）、２年生５名（男子４名・女子１名）、３年生131名（男子89名・女子42名）、４年生145名（男子104名・女子41名）の合計283名（男子199名・女子84名）が在籍しています。

＊令和５年度からの新学科の開設に対応して、IDSの１年生および２年生は留年した学生数となっております。ちなみに国際共生学科の１年生は169名（男子121名・女子48名）、２年生は138名（男子91名・女子47名）となっております。

本年度の研究室配置と所属教員

国際環境経済研究室
松本礼史　教授

国際環境保全学研究室
ロイキンシュック　教授
佐々木綾子　専任講師

国際協力研究室
飛田　哲　教授
福田聖子　専任講師

国際経営・流通研究室
李　裕敬　准教授

国際経済研究室
石田正美　教授

国際社会研究室
山下哲平　准教授

熱帯資源作物研究室
倉内伸幸　教授
加藤　太　准教授
佐々木大　専任講師

農業経済研究室
菊地　香　准教授

比較文化研究室
園江　満　専任講師

学科事務室
松浦知恵子　能登　香

以上、15名（教授５名、准教授４名、専任講師４名、学科事務室２名）で運営しております。　（山下　哲平）

応用生物科学科校友会

応用生物科学科
連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353　事務局長　明石 智義
E-mail：akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

学科の近況

学科体制の再編のため応用生物科学科の新入生はおらず、現在の３年生が最後の入学生となりました。在籍学生は３年生150名、４年生123名となっています。ただし応用生物科学科は、在学生がすべて卒業するまで存続します。また研究室の場所の変更は無く、これまでどおり４号館の２階と３階、生命科学研究所で研究活動を行っています。

学科への支援事業

学科では新入生がいなくなり、新入生歓迎会、スポーツフェスタ、オープンキャンパスなどのイベントへの支援はできませんでした。卒業生はコロナ禍に入学し、これまで十分な支援できなかったため、卒業記念品として全員にQUOカード（10,000円）を贈呈しました。なお学位伝達式では、西川美羽さん、吉田富美さん、石原幸季さんの３名が、優等賞および学部長賞を受賞されました。次年度は準会員が基本的に４年生のみになるため、学生の皆様へどのような支援ができるのか、見通すことができません。事務局では今後検討し、適切な支援活動を行いたいと考えています。

学科教職員の動き

司馬肇 教授

令和６年３月に核酸・蛋白質科学研究室の司馬肇 教授が定年退職されました。また５月には土屋徳司専任講師が退職されました。両先生には教育と研究活動にご尽力いただき誠にありがとうございました。

土屋徳司 専任講師

なお土屋先生は退職後はイギリスに渡り、Norwich（ノリッジ）にあるThe Sainsbury Laboratory（セインズベリー研究所）で勤務されています。今後の先生のご活躍をご祈念します。また司馬先生は特任教授として、これからも応用生物科学科及びバイオサイエンス学科（新学科）の教育に携わって頂きます。

高野英晃先生

西山辰也先生

また生命工学研究室の高野英晃先生が教授へ、西山辰也先生が専任講師に昇格されました。

訃報

令和６年４月19日に小山鐵夫 教授（植物細胞学研究室）がご逝去されました。小山先生は退職後、高知県立牧野植物園で15年にわたり園長を務められ、植物学の発展に多大な貢献をされました。令和５年10月８日には、内山寛先生及び研究室卒業生が主催し、都内で小山鐵夫先生卒寿記念パーティーが開催され、その時はお元気そうでした。先生には、学科が設立された昭和63年度に教授として着任以来、長年にわたり教育・研究活動にご尽力されたことに感謝を申し上げると共に、ご冥福をお祈り申し上げます。

小山鐵夫先生
卒寿記念パーティーにて

事務局より

改組により教員の所属はバイオサイエンス学科、動物学科、海洋生物学科に移動しました。応用生物科学科校友会も在学生がすべて卒業するまで存続します。しかにその後は、「準分会」として存続していく可能性がありますが、未確定のところが多くあります。なお住所の変更、改姓、問い合わせ等ございましたらご一報下さいますようお願い致します。　（明石　智義）

卒業式後の風景

くらしの生物学科校友会

くらしの生物学科
連絡先：くらしの園芸研究室
0466-84-3743　事務局長　新町 文絵
E-mail：brs.kurashi.ko-u@nihon-u.ac.jp

くらしの生物学科の近況

くらしの生物学科（BDL：Department of Bioscience in Daily Life）では、4月から新町先生がくらしの生物学科の学科責任者に、小谷先生が学部の就職指導担当に就任されました。

また昨年3月に御定年で退職されました渡邉慶一先生が昨年12月に逝去されました。先生はキウイフルーツおよび近縁種の生理・生態並びに育種的利用、果樹・野菜のカロテノイド・アントシアニン色素、小果樹類の生理・生態および栽培利用が御専門です。昨年3月の送別会ではお元気で、7月には都内の社団法人で仕事をしているんだとのお話を伺ったばかりでしたので御逝去が信じがたく、とても残念でなりません。改めて渡邉先生のこれまでの教育・研究へのご尽力に感謝を申し上げ、心から御冥福をお祈り申し上げます。

本年度くらしの生物学科は、

くらしの園芸
新町文絵 教授
（学科責任者：バイオサイエンス）
水野真二 准教授（アグリサイエンス）

動物のいるくらし
恒川直樹 教授（獣医保健看護）
金澤朋子 助教（動物）

くらしの微生物
光澤　浩 教授（バイオサイエンス）
相澤朋子 専任講師（バイオサイエンス）

くらしのバイオ
炭山大輔 専任講師（環境）
安齋　寛 特任教授

食と健康
山下正道 准教授（食品開発）
近藤春美 准教授（バイオサイエンス）

住まいと環境
小谷幸司 教授（国際共生）
小島仁志 助教（環境）

学科事務室
巣籠和菜 実習助手

の13名（（　）内は新学科での所属）で運営しています。

なお本年7月1日現在で4年生78名、3年生80名、2年生1名の計159 名の準会員が在籍しています。

学科の活動として、3年次の必修科目「ボランティア活動」は無事に実地活動を終了し、1月下旬に対面形式で発表会を実施しました。

また2月16日には第6回の学科卒業研究発表会が対面形式で開催されました。4年生だけでなく、研究室に所属している3年生および希望する1，2年生も参加し、75件の研究発表があり、活発な質疑応答が行われました（写真1）。

卒業研究発表会の様子（写真1）

3月21日には、実に5年ぶりに卒業パーティーが横浜ロイヤルパークホテルで開催され、多くの4年生が参加しました（写真2）。コロナ禍で入学して、1年次前期はすべてオンデマンド授業で大学へ来ることもなく、毎年実施していた新入生の学外研修も中止、スポーツフェスタもなく、フレッシュマンセミナーでのグループワークもオンラインでペアワークになるなど、大学へ入学した実感が持てないような状況だったと思います。3年次、4年次と学年が上がり、徐々に通常の学生生活が戻り、卒業パーティーを開催できたことはとても嬉しく思います。学生たちが食事をしながら、同級生や先生方と談笑しており、思い出に残るパーティーになったことと思います。続く3月25日の学科の学位記授与式は、体育館での学部全体での卒業式後に開催されました。学科責任者の恒川先生から一人一人に学位記が渡され（写真3）、6期生75名が卒業し、新たに校友となりました。学位授与の後は満開の桜のもと記念撮影をする姿があちこちにみられ、また5号館で各研究室を巡っての記念撮影など、こちらもコロナ禍以前の様子に戻ったように思います。

卒業パーティー後の集合写真（写真2）

学位記授与の様子（写真3）

4月上旬における卒業後の進路は63名が就職、このうち4名が公務員となりました。この他6名が本学の大学院へ進学しました。

また学部ホームページからも閲覧・ダウンロード出来る本年度の学部パンフレット（p.16）に、1期生の野口琴未さんの「卒業生からのメッセージ」が掲載されています。

くらしの生物学科 校友会の活動報告

校友会から卒業生への卒業記念品として、令和5年度も卒業生が卒業アルバムを編集し、卒業生全員に贈呈、学科に1冊を寄贈しました。

令和6年度の総会については追って御連絡致します。

くらしの生物学科校友会事務局より

くらしの生物学科は、現在ホームページ（http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kurashi/index.html）およびFacebookやインスタグラムなどで情報を発信しています。御連絡、および卒業時に届け出たメールアドレスや連絡先住所、勤務先、氏名などの変更がありましたら、事務局長までお願い致します。　（山下　正道）

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先　〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14
支部長：鎌田 雅敬　事務局長：早坂 睦雄
TEL携帯：080-5579-5456　FAX.022-378-6592
E-mail：mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会はＲ６年度で21周年を迎えました。

■R6.6.21. 第18回総会・懇親会を仙台市内「エスカイヤクラブ仙台店」で開催しました。会員7名の出席、日本大学校友会宮城県支部より小野隆支部長をはじめ芸術学部宮城江古田会会長及び文理学部校友会宮城県支部長、山形県支部長と副支部長の来賓５名のご臨席をいただき審議され、Ｒ５年度決算・Ｒ６年度計画予算について了承されました。懇親会では各人３分間スピーチを行い、次回の再会を楽しみにお開きとなりました。

総会集合写真

■NU校友会宮城県支部役員会
R6.5.8.「ホテル仙台ガーデンパレス」で開催、鎌田支部長が出席。

■NU学部校友会宮城県支部総会懇親会
R6.6.21.「エスカイヤクラブ仙台店」
16：15～総会　17：00～懇親会
仙台市青葉区１番町4-6-1
仙台第１生命タワービル21F

■NU学部校友会本部通常総会
R6.7.13.生物資源科学部本館NUホールAで開催、欠席。

■NU校友会宮城県支部総会・懇親会
R6.7.22.「ホテル仙台ガーデンパレス」で開催、鎌田支部長が出席。

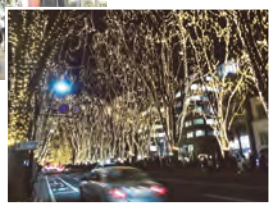
■宮城県支部開催「第７回仙山交流会」
R7年度に移行

■NU学部校友会山形県支部総会・懇親会
R6.11.16.（土）山形市内。出席者未定。

■NU学部校友会宮城県支部役員会
JR名取駅前「サッポロビール園レストラン」開催予定。

■NU校友会宮城県支部R7年新年名刺交換会

■ローカルトピックス
『冬の風物詩きらめく』
Ｒ５年12月８日「SENDAI光のページェント」が、新型コロナウイルスの５類移行により、４年ぶりに復活開催されました。約50万個の発光ダイオードLED電球が129本のケヤキ並木に取り付けられ、冬枯れの定禅寺通りが温かな光に包まれました。


光の
ページェント

■会員の状況（Ｒ６年現在30名）
※卒業生・富嶽会1名・紫友会1名・角笛会1名・満喜葉会４名・いもづる会５名・あすなろ会４名・桜水会２名・工学会５名・FT会４名・拓友会２名・湘南校友会1名・賛助会員：提携校東北高等学校　（文責者　早坂睦雄）

山形県支部の近況

連絡先　〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘4-55
日本大学山形高等学校　小嶋 佑治
TEL.023-641-6631　FAX.023-641-6634
E-mail：kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

■第29回生物資源科学部校友会
山形支部総会
令和５年11月11日（土）、パレスグランデールを会場に、会員17名の参加と、来賓として生物資源科学部校友会本部より髙橋善人副会長（紫友会会長）、日本大学山形高等学校校長の中園健二氏、日本大学校友会山形県支部長の篠原みゑ子氏、日本大学校友会各学部の県支部長８名のご臨席を頂き開催されました。

集合写真

総会では池田支部長の議長のもと、令和５年度の会務報告と会計決算報告　令和６年度会務計画と会計予算を審議し承認され決定されました。また、卒業生の確保そして校友会正会員の増員などについて検討しました。

総会風景

《記念講演》
髙橋善人副会長より、演題『「下水道は宝の山」下水道資源の利活用について』と題し記念講演をいただきました。
生活に欠かせない水の処理法等についての内容で興味深く拝聴し多くの質疑応答があり充実した講演でした。
その後、学部の現況報告をお聞きし、髙橋善人副会長から池田支部長へ支部活動助成金の贈呈がありました。

支部活動費贈呈

講演風景

《懇親会》
来賓を代表して校友会山形県支部長の篠原みゑ子氏のご挨拶をいただき、経済学部校友会山形県支部の田中教仁顧問の乾杯で懇親がスタートしました。
学生時代の思い出話しなどに花が咲き、後半に恒例の３分間スピーチが始まり、学科単位で登壇して一人ひとり近況報告をし、楽しい時間を過ごし最後に皆で声高らかに校歌斉唱をし、次回の再会を誓い会いました。

■支部活動
日本大学校友会山形県支部は法学部、文理学部、経済学部、商学部、芸術学部、国際関係学部、工科系（理工、生産、工）、医学部、歯学部、薬学部、通信教育部、生物資源科学部が存在し活動をしています。
・山形県支部は新年会（支部役員の顔合わせ）（1月）、総会の実施（7月）
・当支部は年１回の総会と事業を実施しています
・宮城県支部との仙山交流会は、山形県での豪雨災害により多大な被害が発生した中での開催を控え、次年度に見送りとなりました。　（幹事長　渡部秀実）

神奈川県支部の近況

連絡先
〒252-0880　神奈川県藤沢市亀井野1866
日本大学生物資源科学部　食品開発学科
食品資源利用学研究室　鳥居恭好（事務局長）
E-mail：torii.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

●神奈川県支部では昨年から『フードバンクふじさわ』へ野菜の寄贈を行っています。フードバンクは、生活に困窮している片親世帯や大学生（日大生も含む）を対象に、企業や市民から提供された食材を藤沢市内の５カ所で毎月約300人に配布しています。昨年は、じゃが芋、さつま芋、里芋、玉ねぎなど、日持ちする野菜を中心に約500kgを提供しました。また、チンゲンサイ、ブロッコリーなどの葉物野菜も寄贈しました。

写真１
じゃが芋の贈呈式（7月5日）

今年もじゃが芋約200kg（写真1）、玉ねぎ約350個を贈呈しました。支部会員が地区社会福祉協議会（地区社協）の役員を兼ねており、必要とする種芋、さつま芋苗、肥料などの支援を受けながら大学校友会と地区社協の連名で野菜を寄贈しています。このような野菜の支援活動は他の市町村のフードバンクでは珍しく、藤沢市や市社協からも大変注目されています。

●箱根駅伝の往路３区と復路８区のルートに近接している学部として、神奈川県支部は長年箱根駅伝の応援を行っています。

写真２　箱根駅伝応援後の新年会参加者

母校選手の出場が４年ぶりに叶って嬉しい反面、昨今の大学不祥事も影響して応援人数を集めるのに苦労しました。それでも、1月2日の往路応援には14人が、3日の復路応援には25人が集まりました。復路の応援終了後には、応援拠点としているお店で新年会を開催しました（写真2）。箱根駅伝を久しぶりに応援できたことは、母校選手の活躍のお陰です。来年はシードを取れる可能性も噂されており、卒業生として箱根駅伝の応援に一層努めて参りたいと思います。

●令和５年８月中旬に蕎麦の種蒔き、11月には刈り取りと脱穀作業を行いました。蕎麦の実は水で綺麗に洗い、乾燥させた後に電動石臼で製粉しました。4月6日に会員のそば打ち名人が蕎麦打ちしたものを支部会員約19名に試食していただきました（写真3, 4）。皆さん7年ぶりの蕎麦打ち会となり、大変満足されたことと思います。蕎麦を育てて収穫し、蕎麦打ちまで通して経験する例は稀であり、今後も大事な支部活動として継続していきたいと思います。　（支部長　稗貫　峻）

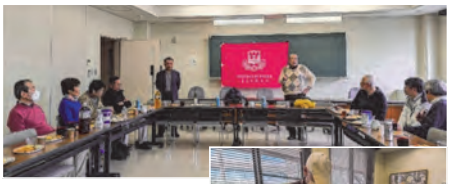


写真３
蕎麦打ち試食会の様子

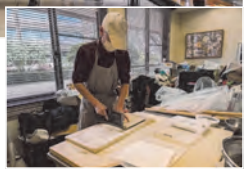


写真４　蕎麦作りの様子

学部校友会事務局からのお知らせ

１　卒業生の動向について

平成 26 年度から令和 5 年度までの 10 年の年度別卒業生数及び延べ卒業生数は次表のとおりです。

（単位：人）

区　分		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
卒業生数		1,824	1,848	1,675	1,704	1,799	1,670	1,566	1,557	1,589	1,537
内訳	学部生	1,600	1,601	1,603	1,614	1,715	1,581	1,480	1,482	1,520	1,443
	短大生	144	149	—	—	—	—	—	—	—	—
	大学院生	80	98	72	90	84	89	86	75	69	94
延べ卒業生数		95,098	96,946	98,621	100,325	102,124	103,794	105,360	106,917	108,506	110,043

※ 短期大学部は平成 27 年度をもって廃止されました。

２　藤桜祭の開催について

令和６年度の藤桜祭は、10 月 26、27 日（土、日）の両日学内で開催されます。
学部校友会では、事務局会議室（2 号館 2 階）を休憩場所として開放しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしています。

令和６年度の役員名簿は➡コチラ

５　令和７年度の通常総会及び懇親会の開催について

（1）通常総会
ア　日 時：令和７年７月12日（土）　午後２時から　　イ　場 所：日本大学生物資源科学部 本館ＮＵホールＡ
（2）懇親会
ア　日 時：同日　午後４時30分から　　イ　場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟３階

◎　お願い

掲載記事の内容に関するお問い合わせ、住所変更の届け出、あるいは今後の会報発送不要等のご連絡は、各学科校友会及び都道府県支部の記事掲載ページに記載してあります連絡先までお願いします。

発行所　日本大学生物資源科学部校友会　〒252-0880　神奈川県藤沢市亀井野1866
印刷所：(株)デイ・エム・ピー　〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 561